

PRIMERGY BX920 S3 / BX924 S3 サーバブレード ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY BX920 S3 / BX924 S3 サーバブレードに関して、以下の留意・注意事項がございます。本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

2016 年 8 月
富士通株式会社

【PRIMERGY BX920 S3 / BX924 S3 サーバブレード 共通】

1. BIOS 設定のバックアップについて

マネジメントブレード Web ユーザインターフェース[情報/操作]-[操作]-[バックアップ/復元管理]では、BX920 S3/BX924 S3 の BIOS 設定をバックアップできません。BIOS 設定は環境設定シートに記入してください。

環境設定シートは下記 URL から入手できます。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

2. 消費電力制御設定について

下記発生条件を満たしたとき、本来動作しない消費電力制御機能が動作する場合があります。

発生条件

- ① BIOS 設定（注 1）の [Power Technology]を“Disable”に設定、
または、[Power Technology]を“Custom” かつ [Enhanced SpeedStep]を“Disabled”に設定。
- ② マネジメントブレード（注 2）の [システム消費電力モード]を“サーバで管理”に設定。
- ③ マネジメントブレード（注 2）の [サーバ制御の消費電力モードテーブル]の[消費電力モード]を“iRMC 制御”に設定。

iRMC 設定（注 3）の [電源制御オプション]-[電力制限オプション]ボックス（赤枠部分）が表示されている場合、消費電力制御機能が動作しています。

The screenshot shows the ServerView iRMC S3 Web Server interface. The left sidebar contains a tree view with the following items: システム情報, BIOS, iRMC S3, 電源制御, 電力制御 (highlighted), センサ, イベントログ, サーバ管理情報, ネットワーク, 通知情報設定, ユーザ管理, コンソールリダイレクション, ビデオリダイレクション (JWS), リモートストレージ, Third Party Licenses, and 再読み込み. The main content area is titled '消費電力制御' (Power Management). It contains two sections: '電力制御オプション' (Power Control Option) and '電力制限オプション' (Power Limiting Option). The '電力制限オプション' section is highlighted with a red rectangle. It includes the following settings: 電力制御: 電力制御, 無効; 消費電力監視単位: Watt; 消費電力モニタリング有効: ☒; 電力制限: 155 Watt; 電源調整のための警告値: 90 パーセント; 電力制御処理までの許容時間: 1 分; 電力制限到達時の動作: 継続稼働する; 動的な電力制御を有効にする: ☒. At the bottom of the red box is a '適用' (Apply) button. Below the red box, there are two footnotes: ① 注: 電力制御を使用するためには、BIOSセットアップにてEnhanced Speed Stepを有効にする必要があります。それでもこのメッセージが表示されている場合、CPUがこの機能をサポートしていないか、あるいはシステムがBIOSのPOST中です。 ② 注: 電力制限到達時の動作に電源切断(シャットダウン)を適用する場合、ServerView Agentが動作している必要があります。

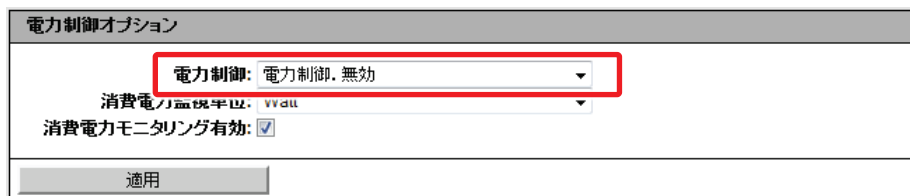
(注 1) BIOS セットアップメニュー [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology]

(注 2) マネジメントブレード Web ユーザインターフェース [情報/操作]-[操作]-[電源管理]-[消費電力]タブ

(注 3) iRMC Web ユーザインターフェース [電力制御]-[電力制御オプション]

消費電力制御機能を無効にする場合は、以下の手順で設定してください。

1. サーバブレードの電源を切断します。
2. iRMC Web ユーザインターフェースにログインします。
3. [電力制御]-[電力制御オプション]-[電力制御オプション]ボックスの[電力制御]を“電力制御、無効”に設定し、[適用]ボタンをクリックします。



対象コンポーネント：サーバブレード BIOS/iRMC 全版数

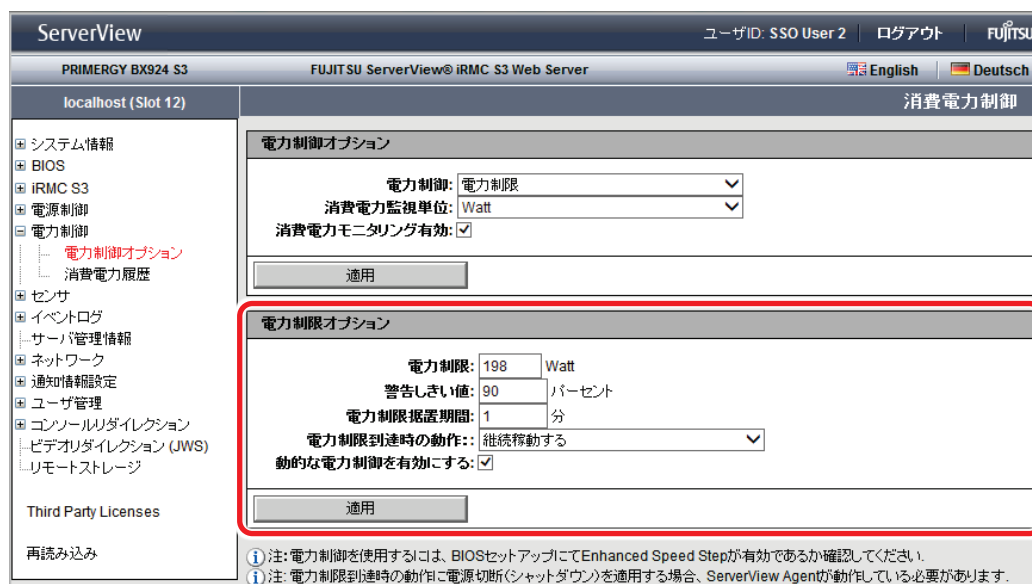
3. 電力制御オプション設定について

下記発生条件を満たしたとき、電力制御オプション設定が意図せず初期設定(電力制御、無効)から変更され、消費電力制御機能が動作する場合があります。

発生条件

- ① サーバブレードをご購入、または保守交換した場合。
- ② マネジメントブレード(注 1)の[システム消費電力モード]を“サーバで管理”に設定。
- ③ マネジメントブレード(注 1)の[サーバ制御の消費電力モードテーブル]の[消費電力モード]を“iRMC 制御”に設定。

iRMC 設定(注 2)に[電力制限オプション]ボックスが表示されている場合、消費電力制御機能が動作しています。



(注 1) マネジメントブレード Web ユーザインターフェース [情報/操作]-[操作]-[電源管理]-[消費電力]タブ

(注 2) iRMC Web ユーザインターフェース [電力制御]-[電力制御オプション]

消費電力制御機能を無効にする場合は、以下の手順で設定してください。

1. iRMC Web ユーザーインターフェースにログインします。
2. [電力制御]-[電力制御オプション]-[電力制御オプション]ボックスの[電力制御]がグレーアウトして変更できない場合、サーバブレードの電源を切断します。
3. [電力制御]-[電力制御オプション]-[電力制御オプション]ボックスの[電力制御]を“電力制御、無効”に設定し、[適用]ボタンをクリックします。

※一度“電力制御、無効”に設定した後は、以後、設定が変更されることはありません。



サーバブレード BIOS/iRMC 全版数

4. 電源ユニットの活性交換・活性増設時の注意事項について

下記発生条件の何れかの設定をしている場合に、BX900 S2 シャーシ、かつ、高効率電源ユニット(PY-PU281)搭載時に電源ユニットの活性交換・活性増設を行うと搭載されたサーバブレードが一時的に CPU スローダウンが発生します。通常は元の CPU スピードに自動的に戻りますが、CPU のスローダウンが発生し続ける場合があります。本現象が発生した場合には OS の再起動が必要となります。

発生条件

- ④ BIOS セットアップメニューで[Advanced メニュー]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Disable”に設定。
- ⑤ BIOS セットアップメニューで[Advanced メニュー]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Custom”に設定し、[Enhanced SpeedStep]を“Disabled”に設定。
- ⑥ BIOS セットアップメニューで[Advanced メニュー]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Energy Efficient”に設定し、MMB または iRMC 設定で iRMC 電源制御オプション設定を“電力制限”に設定。
- ⑦ BIOS セットアップメニューで[Advanced メニュー]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Custom”に設定かつ [Enhanced SpeedStep]を“Enabled”に設定し、MMB または iRMC 設定で iRMC 電源制御オプション設定を“電力制限”に設定。

対象コンポーネント： BX920 S3/BX924 S3 iRMC ファームウェア Ver. 6.29G 以下

本問題は、iRMC ファームウェア Ver.6.30G で修正しました。

5. UEFI モードでの OS インストールに失敗する場合があります

本製品では、BIOS 設定の[Boot]メニューの[UEFI Boot]は“Enabled”にしてご使用になれません。

[UEFI Boot]を“Enabled”にして OS インストールを行うと、インストールに失敗する場合があります。この事象は“Disabled”（ご購入時設定）では発生致しません。

[UEFI Boot]を“Enabled”にして OS インストールを行うと、インストールに失敗する場合があります。この事象は“Disabled”（ご購入時設定）では発生致しません。

6. Intel TXT 機能について

本製品では、Intel TXT 機能 ^{*1} はご使用になれません。

*1: Intel TXT 機能（インテル®トラステッド・エグゼキューション・テクノロジー）

7. SR-IOV 機能について

SR-IOV ^{*1} 機能は、Windows Server 2012, 2012 R2 環境で使用できます。
但し、CNA ^{*2} ファームウェアは 10.2.405.32 以降の版数の適用が必要です。
VIOM ^{*3} をご使用の場合は、V3.4.06 以降の版数をご使用ください。

*1: Single Root I/O Virtualization

*2: Converged Network Adapter

*3: ServerView Virtual-IO Manager

8. ソフトウェア RAID とハードウェア RAID の相違点について

本製品は、ソフトウェアの処理により RAID 機能を実現しております。ハードウェア RAID コントローラと比較すると、機能面・性能面に差がございます。詳細は下記 URL をご参照ください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/hdd_construct/note03.html

9. Windows イベントログについて

オンボード CNA ^{*1} コントローラおよびコンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボードにおいて、下記イベントが OS のイベントログに記録されることがありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

*1: Converged Network Adapter

ソース : be2 net

イベント ID : 37

レベル : 警告

キーワード : クラシック

""Emulex OneConnect OCl11102-LOM *-port PCIe 10GbE Converged Network Adapter

#*: The device firmware does not support TCP offload functionality.""

10. ネットワークカード／サーバブレード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、LAN 拡張ボード及びコンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボードまたはサーバブレードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報（IP アドレス / Teaming 設定など）が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2)	: KB2710558 (Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)
Windows Server 2008 R2	: KB2344941, KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)
Windows Server 2008 R2 (SP1)	: KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

- ・ Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。
2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。
<http://support.microsoft.com/>
- ・ Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。
OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。
- ・ Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。
SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN 及び CNA コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

- (1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
start devmgmt.msc
```

- (2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

- (3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

11. 内蔵ストレージデバイスのオンボード SAS/SATA コントローラ接続について

本製品では、オンボード SAS/SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを Native 接続（非 RAID 構成）してご使用になれます。オンボード SAS/SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを接続する場合は、必ず RAID を構成する必要があります。

ただし、VMware™ vSphere 5/5.1 および VMware™ ESXi 5.0/5.1 をご使用される場合を除きます。

12. VMware™ vSphere 5/5.1 および VMware™ ESXi 5.0/5.1 について

1) オンボード SAS/SATA コントローラについて

VMware では、オンボード SAS/SATA コントローラでの RAID 構成は未サポートです。

2) BIOS 設定について

VMware をご使用される場合は、BIOS 設定を変更する必要があります。以下をご覧になり BIOS 設定を変更してください。

オンボード SAS/SATA コントローラに内蔵ストレージデバイスを接続する場合

BIOS 設定の [Advanced] メニュー - [Onboard Devices Configuration] サブメニューの [Onboard SAS/SATA (SCU)] と [SAS/SATA OpROM] を次の設定にしてご使用ください。

Onboard SAS/SATA (SCU)	: Enabled	(ご購入時設定)
SAS/SATA OpROM	: Intel RSTe	(ご購入時設定は“LSI MegaRAID”)

SAS アレイコントローラ拡張ボード / SAS アレイコントローラモジュールに内蔵ストレージデバイスを接続する場合

BIOS 設定の [Advanced] メニュー - [Onboard Devices Configuration] サブメニューの [Onboard SAS/SATA (SCU)] を“Disabled” (ご購入時設定は“Enabled”) に設定してご使用ください。

13. リモートマネジメントコントローラ (iRMC S3) Web インターフェースの使用上の注意事項

【修正済】

ASR & R オプション上の項目を設定する際、本メニュー中にあります「BIOS Recovery Flash」設定が有効になっている場合があります (ご購入時設定は「無効」)。有効にする必要がない場合は、無効に戻してご使用ください。

本件は、iRMC ファームウェア 6.24G で修正しました。

14. メモリのミラードチャネルモードについて【修正済】

本製品では、メモリのミラードチャネルモードはご使用になれません。

BIOS 設定の [Advanced] メニュー - [Memory configuration] サブメニュー内の [Memory Mode] を“Mirroring”に設定してご使用になれません。

本件は、BX924 S3 では BIOS R2.11.0、BX920 S3 では BIOS R2.13.0 で修正しました。

15. メモリのミラードチャンネルモードの使用時の注意事項

メモリミラードチャンネルモードをご使用される場合は DIMM を次のように搭載してください。

PRIMERGY BX920 S3 サーバブレード

- 1 CPU 構成時、DIMM は 2 枚のみ搭載可（搭載位置は DIMM-1B,1C）
- 2 CPU 構成時、DIMM は 4 枚のみ搭載可（搭載位置は DIMM-1B,1C,1E,1F）

PRIMERGY BX924 S3 サーバブレード

- 1 CPU 構成時、DIMM は 4 枚のみ搭載可（搭載位置は DIMM-1A,1B,1C,1D）
- 2 CPU 構成時、DIMM は 8 枚のみ搭載可（搭載位置は DIMM-1A,1B,1C,1D,1E,1F,1G,1H）

16. RedHat5.9/6.4 でのオンボード RAID の使用時の制限について【修正済】

RedHat5.9/6.4 をインストールするするシステムの場合、下記の構成ではオンボード RAID を使用することはできません。

オンボード RAID を使用することはできません。

[対象構成]

- オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)を使用して、オンボード RAID へ下記の SSD を接続して使用する場合
- 内蔵 2.5 インチ SSD
(PY-SD10MD/PY-SD20MD/PY-SD40MD/PY-SD10ND/PY-SD20NDPY-SD40ND/PYBSD10MD/
PYBSD20MD/PYBSD40MD/PYBSD10ND/PYBSD20ND/PYBSD40ND)

本件は、BIOS R2.22.0 で修正しました。

17. リモートマネジメントコントローラ (iRMC S3)のシェアード LAN について

オンボード CNA 経由で iRMC に接続する際は IPv4 をご使用ください。

18. Windows OS または RedHat5.8/6.2/6.3 でのオンボード RAID の使用時の制限について【修正済】

Windows OS、または Linux RedHat5.8/6.2/6.3 をインストールするするシステムの場合、下記の構成では、後述の版数のドライバを使用してください。デバイスドライバは富士通のダウンロードサイトより入手可能となっております。

[対象構成]

- オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)を使用して、オンボード RAID へ下記の SDD を接続して使用する場合
- 内蔵 2.5 インチ SSD
(PY-SD10MD/PY-SD20MD/PY-SD40MD/PY-SD10ND/PY-SD20NDPY-SD40ND/PYBSD10MD/
PYBSD20MD/PYBSD40MD/PYBSD10NDPYBSD20ND/PYBSD40ND)

[使用するドライバ版数]

Windows Server 2012 の場合： V15.00.0811.2012

上記以外の Windows OS、または Linux の場合： V15.00.0329.2012

[デバイスドライバの入手方法]

以下の弊社 URL より該当の機種を選択し、ダウンロードしてください。

<http://www.fmwORLD.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目のみ選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- ・製品名：〔ご利用の機種を選択〕
- ・型名：〔ご利用機種の型名を選択〕
- ・OS：〔ご利用のOS名を選択〕
- ・カテゴリ：〔RAID／その他〕(*)

*: カテゴリの選択

- ・Windows の場合、
カテゴリは「RAID」を選択してください。
検索結果の一覧より「ソフトウェア RAID Embedded MegaRAID Windows Driver」をダウンロードしてください。
Windows Server 2012 の場合： V15.00.0811.2012
Windows Server 2012 以外の場合： V15.00.0329.2012
- ・Linux の場合
カテゴリは「その他」を選択してください。
検索結果の一覧より、お使いのカーネル版数に該当する最新版ドライバキットをダウンロードしてください。

本件は、BIOS R2.22.0 で修正しました。

19. BIOS R1.5.0 以前をご使用時について

BIOS R1.5.0 以前の版数をご使用の場合はサーバブレードの故障後の交換作業に通常より時間がかかる場合があります。最新の BIOS を適用することをお勧めします。BIOS は富士通のダウンロードサイトより入手可能となっております。

20. SAS コントローラ拡張ボード／SAS アレイコントローラ拡張ボードのご使用の場合の注意事項

SAS コントローラ拡張ボード(PY-SCD08/PYBSCD082)または SAS アレイコントローラ拡張ボード(PY-SRD08/PYBSRD082)をご使用の際は、BIOS 設定の[Advanced]メニュー-[Option ROM Configuration]-[Launch Slot 3 OpROM]を[Enabled]に設定してご使用ください。

21. Java 8 update 45 (8u45) でのビデオリダイレクション (AVR) 機能の留意について (対象：iRMC ファームウェア 全版数)

※本事象は **Java 8 update 51(8u51)**以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開) を適用した管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



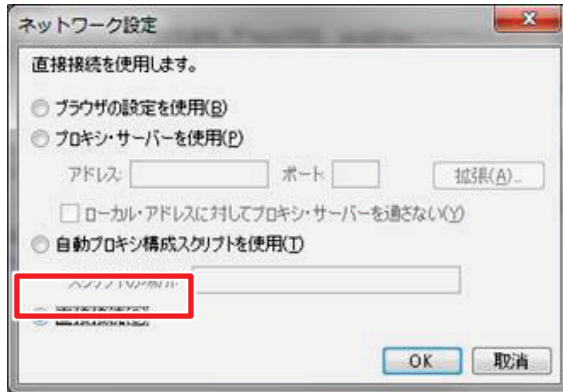
本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
- ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。

注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

<回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例>

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
 - (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
 - (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
 - (4) [直接接続 (D)] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。
- なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



オンボード コンバージド・ネットワーク・アダプタに関する留意は下記に公開している、
「CNA（コンバージド・ネットワーク・アダプタ）および CNA カード・CNA 拡張ボードご使用上の留意・注意事項」をご参照ください。
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

【PRIMERGY BX920 S3 サーバブレード のみ】

1. BIOS R2.20.0 について（アップデートツール V7.0L10）

BIOS R2.20.0 で対象メモリを使用すると実際のメモリサイズと異なって表示する不具合があります。

・対象メモリ

メモリ-4GB (4GB 1600 LV-UDIMM×1) (PY-ME04VA2/PYBME04VA2)

メモリ-4GB (4GB 1600 LV-RDIMM×1) (PY-ME04RA2/PYBME04RA2)

メモリ-32GB (32GB 1333 LV-LRDIMM×1) (PY-ME32DA2/PYBME32DA2)

2. Windows Server 2012 の「記憶域スペース」ご使用の場合の注意事項

PRIMERGY SX980S2 ストレージブレード及び JX40 と接続し、Windows Sever 2012 の「記憶域スペース」をご使用になる場合、以下の注意事項をご確認ください。

1) HDD の状態監視について

「記憶域スペース」に使用する PRIMERGY SX980S2 及び JX40 の HDD の状態監視は ServerView RAID Manager では行えません。

2) HDD の交換について

「記憶域スペース」で使用している HDD をシステムが稼働したまま交換すると、HDD の情報が正しく取得できません。Windows を終了して交換を行うか、交換後に Windows を再起動する必要があります。

3) ホットスワップについて

記憶域スペースではホットスワップを使用できません。

【PRIMERGY BX924 S3 サーバブレード のみ】

1. 騒音について

本製品を BX900 S1/BX900 S2 シャーシ搭載時、シャーシの FAN 回転数が増加する場合があります、運用時の動作音が大きくなることがあります。

2. Xeon プロセッサ E5-2643 / E5-2690 使用時の吸気温度について

本プロセッサを 2 個搭載し、内蔵ストレージデバイスをご使用される場合は、吸気温度が 30℃以下の環境でご使用ください

3. Intel® PROset v16.8 について【修正済】

本製品に搭載する CPU の総コア数が 4 個未満の構成において、Intel® PROset v16.8（Windows OS）をご使用されると、リンクアップしない現象が発生する場合があります。Intel® PROset v16.8 をご使用される場合、必ず総コア数が 4 個以上の構成でご使用ください。

本件は、Intel® PROset v17.2（Windows OS）で修正しました。

以上

Copyright 2013-2016 FUJITSU LIMITED